

論文

ドイツ語命令・要求表現における心態詞について

鈴木 康 志

要 旨

語形変化・比較変化をしないドイツ語の不変化詞 (Partikel) のなかで、文成分となることがなく、つまり単独で文頭にくることがなく、通常アクセントをもたず、命題に対する話し手の心的態度を示すものが心態詞 (Abtönungspartikel) と呼ばれる。心態詞は 1970 年頃までは、ただ文にニュアンスを添えるだけの虚辞として扱われるに過ぎなかったが、1970 年代の後半から、発話行為理論、会話分析の発展にともなって、その重要性が注目されるようになった。

心態詞を認定するにはさまざまな基準があり、どの語を心態詞とするかは研究者により異なるが、典型的なものとしては aber, auch, bloß, denn, doch, eben, eigentlich, etwa, halt, ja, mal, nur, schon, vielleicht, wohl などがあげられる。心態詞はあらゆるタイプの文に現れるが、多くの場合用いられる文のタイプが決まっている。ドイツ語命令・要求表現に用いられる心態詞は、上記の中では auch, bloß, doch, eben, halt, ja, mal, nur, schon さらに einfach, ruhig などである。本稿ではこのような心態詞が、ドイツ語命令・要求表現のなかでどのような機能を果たしているかを先行研究を参考にしながら、文学作品を中心とした新たな実例で考察する。

キーワード：ドイツ語、命令文、要求文、心態詞、Abtönungspartikel、心態詞の結びつき、
心態詞の日本語への対応

(1)

»Kommen Sie her, Herr Kesselmeyer«, sagte Tony. »Setzen Sie sich hin. Es ist hübsch, daß Sie kommen... Passen Sie **mal** auf. Sie sollen Schiedsrichter sein. Ich habe eben einen Streit mit Grünlich gehabt... Nun sagen Sie **mal**: Muß ein dreijähriges Kind ein Kindermädchen haben oder nicht! Nun?...« ...

»Nämlich«, fuhr Tony fort, »Grünlich behauptet, ich ruiniere ihn!«

Hier blickte Herr Kesselmeyer sie an ... und dann blickte er Herrn Grünlich an ... und dann brach er in ein unerhörtes Gelächter aus! »Sie ruinieren ihn...?« rief er. »Sie ... ruin ... Sie ... Sie ruinieren ihn also?...O Gott! Ach Gott! Du liebe Zeit!... Das ist spaßhaft!... Das ist höchst, höchst *höchst* spaßhaft!« ...

»Kesselmeyer!« sagte er. »Fassen Sie sich **doch**! Sind Sie von Sinnen? Hören Sie **doch** auf zu lachen! Wollen Sie Wein haben? Wollen Sie eine Cigarre haben? Worüber lachen Sie **eigentlich**?«

(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.202)¹⁾

「こちらへどうぞ、ケッセルマイヤーさん」とトーニが言った。「おかけになって。ほんとうにようこそ…まあ、聞いてください。あなたに審判になっていただきたいんです。いまグリーンリヒと口喧嘩をしていたところですよ…三歳の子に子守がいるか、いないか、あなたのお考えをおっしゃっていただきたいわ！ さあ?…」……

「つまり」とトーニはつづけた。「グリーンリヒはこう言うんですの、君はぼくを破綻させてしまうって。」

するとケッセルマイヤー氏は彼女を見つめ…それからグリーンリヒ氏を見つめた…そして聞いたこともないような爆笑をはじめた! 「あなたが彼を破綻させるんですって?…」と彼は叫んだ。「あなたが…破綻…あなたが…あなたが彼を破綻させるんですって?…これは、これは! いやはや! なんともはや…これはおかしい! なんとも、なんとも、なんともおかしい!」…

「ケッセルマイヤー!」とグリーンリヒは言った。「どうか、落ち着いて。気は確かですか。さあ、いいがげんに笑うのはやめてください! ワインでもどうですか? シガーを1本どうです? いったいなにがおかしいんです?」

トーマス・マンの『ブデنبローク家の人々』の中で、子どものためにもう一人使用人を雇ってほしいというトーニとその必要はないという夫グリーンリヒとの言い争いの最中に銀行家のケッセルマイヤーがやってくる場面です。グリーンリヒはトーニが好きで結婚したわけではなく、商売の窮状を脱するため、トーニからの持参金が目当てでした。

そのことを知っているケッセルマイヤーは、トーニから、グリーンリヒが「君（トーニ）はぼく（グリーンリヒ）を破綻させる」と言ったと聞かされ、爆笑せずにはいらませんでした。ケッセルマイヤーの笑いを抑えながらの発言には「トーニの持参金であなたは破産から救われたのに、その彼女があなたを破綻させると、あなたはぬけぬけと彼女に言ったのですか？」というグリーンリヒに対するあてつけが含まれています。

さて、そのケッセルマイヤーの態度に対するグリーンリヒの発言の中には、妻トーニには悟られたくない自分の暗部を 一無意識かもしれませんが 仄めかす銀行家ケッセルマイヤーに対する「いらだち」さらにそのような行為をやめるよう「促がす」気持ちが反映しています。そしてまさにそれを表しているのが心態詞（Abtönungspartikel）の *doch* や *eigentlich* です。心態詞 *doch* や *eigentlich* に特定の訳語があるわけではありませんが、「どうか」「さあ、いいかげんに」などに「いらだち」や行為をやめるよう「促す」気持ちが（*doch*）、「いったい」に不快感をともなった話者の関心（*eigentlich*）が反映されます。これはグリーンリヒの心底をも暴露するとともに、後のトーニとの破局も暗示し、作品解釈にとっても重要な意味をもつといえます。（なお、最初のトーニの発言 *Passen Sie mal auf. Nun sagen Sie mal.* の *mal* も要求を和らげる機能をもつ心態詞です。）

このようにドイツ語の会話文にはさまざまな心態詞が用いられます。本稿ではまず心態詞について簡単に触れたあと、ドイツ語の命令・要求表現にどのような心態詞が用いられ、どのような機能を果たすのかを具体的な実例とともにみてみたいと思います。²⁾

心態詞（Abtönungspartikel あるいは Modalpartikel）について

ドイツ語の Partikel とは広義には、副詞、接続詞、前置詞など語形変化・比較変化をしない不変化詞を指すが、その中で以下のような特徴をもつものが心態詞とされる。

1. 語形変化、比較変化をせず、通常アクセントをもたない。（ただし、命令・要求表現における *bloß*, *ja* などのようにアクセントをもつものもある。）
2. 文成分をなさず、単独では文頭に来ることはない。（ただし *nur*, *bloß* などは定動詞ではなく、要求としての不定詞と用いられる場合は文頭に来ることがある。 *Nur (bloß) nicht so schnell laufen!* そんなに速く走らないで！）
3. 多くは用いられる文のタイプが決まっている。（例えば *denn* と *etwa* はただ疑問文だけ、*nur* は命令文と願望文にのみ現れる。）
4. 心態詞は文の中さまざまな位置に置かれるが、レーマ（不定冠詞のついた名詞などの

未知の情報)があるときはその直前に、テーマ(既知情報)があるときはその後におかれる。

5. 単独で応答詞として用いられることがない。(Wohnt Hans hier? *Aber. *Auch. *Denn.)
6. 否定や疑問の対象とならない。(*Er kommt nicht doch.)
7. 複数のほかの心態詞とともに用いられることもある(ただし結びつきや語順にきまりがある。)
8. 同一の形態の他の用法の語をもつ。(例えば doch は心態詞以外に、並列接続詞、接続副詞、応答詞でもある。)
9. 心態詞は個々の文成分ではなく、文全体に関係する。
10. 心態詞は文の内容を変えることなく、命題に対する話し手の心的態度を表す。

このように心態詞を認定するにもさまざまな基準があり、どの語を心態詞にするかは研究者により異なるが、典型的なものとしては aber, auch, bloß, denn, doch, eben, eigentlich, etwa, halt, ja, mal, nur, schon, vielleicht, wohl などあげられる。心態詞は Abtönungspartikel という用語を初めて用いた Weydt (1969) までは、ただ文にニュアンスを添えるだけの虚辞 (Flickwort) として扱われていたにすぎなかった。³⁾ しかし 1970 年代後半からは発話行為理論、会話分析の発展に伴って、その重要な役割が注目されるようになった。⁴⁾

さて、本稿はドイツ語における命令・要求表現の考察を主眼とするものであり、心態詞もこのタイプに用いられるものに限定して考察する。心態詞に関しては優れた多くの研究があるが、文のタイプでいえば平叙文と疑問文における心態詞の研究が多いように思われる。ただ、Winkler (1989), Thurmair (1989), Helbig (1990), 岩崎 (1998, 1999, 2000, 2003), 井口 (2000) には命令・要求表現における心態詞に関する詳しい記述がある。⁵⁾ そこで命令・要求表現における心態詞の機能に関しては上記の研究を参考にする。またその機能を具体的に示す単文の例文も Helbig (1990), 岩崎 (1998), 井口 (2000) に共通して用いられている、わかりやすいものを借用する。したがって機能の説明のあとの単文の例文はことわらない限り Helbig, 岩崎, 井口の研究に共通して用いられているものである。

心態詞の最も重要な機能は「命題に対する話し手の心的態度を表す」ことであり、また心態詞は多くの場合用いられる文のタイプが決まっている。ドイツ語の命令・要求表現に用いられる心態詞は auch, bloß, doch, eben, einfach, halt, ja, mal, man, nur, ruhig, schon などである。⁶⁾ 本稿ではこのような心態詞がドイツ語の命令・要求表現でどのような

機能を果たしているかを事例とともに考察していきたい。ただ、このような心態詞もテキストにより現れる頻度にはかなり偏りがある。例えばトーマス・マンの『ブデンブローク家の人々』の命令・要求表現に用いられている心態詞は doch, mal, nur, ruhig だけで特に doch (35 例), mal, (27 例), nur (28 例) に集中している。⁷⁾ そこで doch から始めてみることにしたい。

1. 命令・要求表現における心態詞 doch

1. 1

聞き手の先行する発言や行為を受けて、話し手の要求、とりわけ相手の発言や行為の変化の実現を強く求める気持ちを反映する。また、緊急さ、苛立ち、腹立ち、非難をこめたものにもなりうる。

Schrei doch nicht immer so!	いつまでもそんなにわめくなよ。
Sei doch nicht so traurig!	そんなに悲しむなよ。

心態詞 doch の現れる事例をみてみよう。

(2)

»Zwei Mädchen, gut. Thinka hat abzuwaschen, ... zu bedienen. Die Köchin ist über und über beschäftigt.... *Denke **doch** nach, Grünlich!* Erika muß über Kurz oder Lang jedenfalls eine Bonne, eine Erzieherin haben...«

(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S. 198, Winkler (1989, S.96))

「2人の女中がもういるですって、そうね。でもティンカは洗濯したり…お給仕したりしなきゃならないし、料理の子だってとても忙しいの…よくよく考えてみて、グリーンリヒ！ エーリカは早晚面倒を見てくれる子、家庭教師の娘が必要よ。」

例文(1)の前の部分ですが、女中が不要という夫グリーンリヒに対して、それを考え直すよう、つまり今までの態度を変えるように求める気持ちが doch に反映されています。doch はこの点と関連して、例えば継続する行為をやめるように要求する場合には、苛立ちやその行為をやめるように促す非難のニュアンスがでることになります。例文(1)がその例でしたが、別の例もみてみよう。

(3)

»Mäßigen Sie **doch** Ihre Stimme, Kesselmeier! Lachen Sie **doch** nicht fortwährend so gottverflucht! Meine Lage ist so ernst...« (Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.206)

「どうか声を抑えてください、ケッセルマイヤー。お願いですからいつまでもそんな笑い方をするのはやめてください。私の状態はとても深刻なんです。」

(4)

Mutter Courage: ... Auf der Stell würd er sagen, ich hab sie (die Kassa), da ist sie, ihr seid Stärkeren. So dumm ist er nicht. **Red doch, du dummer Hund.**

(Bertolt Brecht: *Mutter Courage und ihre Kinder*, S.45)

肝っ玉お母：…すぐしゃべりますよ。金庫はもっています、ここにありますってね。あなた方にはかないません。息子もそれほどバカじゃないですよ。(息子に) さあ、お言い、このバカたれ！

例文(3)ではグリーンリヒの暗部を大声でわめきたてるケッセルマイヤーに対して、妻のトーニに悟られないよう、その行為をやめるように促す気持ちが doch に表わされている。また例文(4)では、息子に黙ってないでしゃべるように促す話者（肝っ玉お母）の気持ちが doch に反映されている。

また副詞の so に導入される命令・要求表現は、岩崎（1999）が豊富な例で詳しく触れているように、心態詞 doch を伴い話者のいらだちの気持ちを表す。

(5)

Pater: ... **So rede doch.** Andri? Du schlotterst ja. Was ist mit Barblin? Du hast ja den Verstand verloren. Wie soll ich helfen, wenn du nicht redest! **So nimm dich doch zusammen.** Andri! Hörst du? (Max Frisch: *Andorra*, S.63)

神父：… 黙ってないで話したらどうかね。アンドリ。震えているんだ。バルブリーンがどうしたって。君は分別をなくしてしまったんだ。言ってくれなきゃ助けられないだろう。いいかげんにしっかりしなさい、アンドリ、聞してるのか。

(6)

»Das Leben ist nur Leiden« —so sagen andre und lügen nicht: **So sorgt doch, daß ihr aufhört! So sorgt doch, daß das Leben aufhört, welches nur Leiden ist!**

(Friedrich Nietzsche: *Also sprach Zarathustra*, S.39)

「生きることは悩むことだけだ。」と別の者は言う、それはうそではない。それなら死んでしまえばいいだろう。たんに悩むだけの人生が終わるようにしたらいいだろう。

例文(5)は、自分がユダヤ人だという思いに苛まれたアンドリを神父が諭す場面である。黙り込んだり、素直になれないアンドリーに対する神父のいらだちである。例文(6)は『ツァラトゥストラはこう語った』の「死の説教者」の章である。人生の倦怠、諦念だけを語る死の説教者に対する、生の哲学者ニーチェのいらだちが so ... doch に反映されている。

1. 2

さらに命令・要求表現における doch にはさまざまな機能がある。要求される行為が聞き手の関心の場合 doch は「元気づけ、激励」さらに「許可」や「提案」の性格をもつ。⁸⁾

Setzen Sie sich doch (bitte)!	お座りください。
Nehmen Sie doch noch ein Stück Kuchen!	もう一つケーキを召し上がれ。
Treiben Sie doch ein bißchen Sport!	少しスポーツをされたらどうですか。

同様の例を実例でみてみよう。

(7)

Seref. Okay, gut. *Dann heirate **doch**.* Gesegnet sei es. Ich komm auf Hochzeit und tanz ein bißchen.
(Fatih Akin: *Gegen die Wand*, S.47)

セレフ：わかった。それじゃ結婚しなよ。 幸せにな。俺も結婚式に出て、少し踊るよ。

(8)

Zuletzt blieb er (Giorgio) auf Lorenzos Gesicht haften. Wusste der keinen Rat? Sie waren doch seit gestern Freunde. Da sagte Lorenzo auch schon: »*Werde **doch** Lehrer, wie ich.*«
(Lisa Tetzner: *Die schwarzen Brüder*, S.438)

最後にロレンツォの顔をジョルジョは見た。彼が助言してくれないかな？ きのうから友だちなんだから。するとロレンツォが言った。「僕と同じように教師になりなよ。」

(9)

Der junge Schwarzkopf stand auf und legte seine Pfeife auf die Brüstung der Veranda. »*Aber rauchen Sie **doch**!* Nein, das stört mich ganz und gar nicht....«

(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.125)

シュヴァルツコフ青年は立ち上がり、パイプをベランダの手すりに置いた。「どうぞタバコを吸ってください。ええ、わたしはいっこうにかまいません。」(とトーニは言った)

(10)

»Zu schwer, Thomas, zu schwer...?« »*Ja; Herrgott, spielen wir **doch** nicht Tragödie!*
Reden wir ein bißchen bescheiden....«

(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.380, Winkler (1989, S.96))

「大げさ、トーマス、大げさですって…」「ああ、お互いに悲劇を演じるなんてしないことにしよう。もうすこし謙虚に話し合おうじゃないか。…」

例文(7)は結婚すること、例文(8)は教師になることを勧める気持ちだが、例文(9)は許可、例文(10)では、悲劇の主人公を演じる妹トーニに対して、兄のトーマスがその行為をやめるように要求するニュアンスが *doch* に含まれています。これは提案の機能に近いともいえます。

2. 命令・要求表現における心態詞 *nur*⁹⁾

2. 1

命令・要求表現における心態詞 *nur* は、アクセントが置かれ、強調され（あるいはアクセントが置かれることがなく）要求の緊急性、強めを表す。特にある行為をやめさせる要求（否定の命令文など）において *nur* は *bloß* と同様に緊急な助言、警告、さらに（*sonst* 文が続く場合は）威嚇にもなる。

Störe mich **nur** nicht bei der Arbeit! 仕事の邪魔はしないでくれ！

Geh **nur** aus dem Weg, sonst wirst du überfahren.

そこをどけ、さもないと轢いてしまうぞ。

実例をみてみよう。

(11)

Brander. *Vergeßt **nur** nicht, dem Schneider einzuschärfen,*

Daß er mir aufs genauste mißt

Und daß, so lieb sein Kopf ihm ist,

Die Hosen keine Falten werfen!

(J.W. Goethe: *Faust*, S.97)

ブランダー：仕立屋に忘れず念を押すんだな。

寸法の狂いはいっさい許さん、

自分の首が大事なら、

ズボンに皺ひとつ寄せるなっとな。

(手塚富雄訳 460 ページ)

(12)

»... Und du — nun sitz' hier **nur** nicht herum..., Mamsell Buddenbrook wird wohl auspacken... Oder wenn die Herrschaften an den Strand gehen wollen... *Störe nur nicht!*«
(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, 122, Winkler (1989, S.99))

「(息子に) でおまえは、こんなところで座り込んでいるんじゃないぞ…ブデンブロークのお嬢様はお荷物を解かれるだろう。(トーマスとトーニに) それとも二人で海岸を散歩されますか。…(息子に) おまえはお邪魔するんじゃないぞ。」

(13)

»Frau Wirtin«, sagte K., noch ehe die Gehilfen antworteten, »es sind meine Gehilfen, Sie aber behandeln sie so, wie wenn es Ihre Gehilfen, aber meine Wächter wären...«
... »Werde **nur** nicht böse«, sagte Frieda, »Du mußt unsere Aufregung richtig verstehn...«
(Franz Kafka: *Das Schloß*, S.68)

「女将」とKは助手たちより早く言った。「これは私の助手ですよ。あなたは彼らを自分の助手で、私の見張りをさせているようなあつかいですね。…」「怒らないでよ」とフリーダが言った。「あなたは私たちの気持ちをちゃんと理解してくれなくては。…」

例文(11)はアウエルバッハ地下酒場の客ブランダーのメフィスト (の歌の中の王) に対する, 例文(12)は水先案内人シュヴァルツコフ親方の息子に対する, 例文(12)はフリーダのK. に対する要求の気持ちの強さを表している。また, 岩崎 (2003) はケストナーなどの作品から *Warte nur* を取り上げ, この心態詞が上記のような要求の気持ちの強さを示すだけでなく, 「いまに見ている」という話し手からの脅しや威嚇のシグナルの働きを兼ねていることに触れている。このような例の一つは, やはりゲーテ『ファウスト』におけるアウエルバッハ地下酒場の常連客たちのメフィストフェレスに対する以下の発言であろう。

(14)

Frosch. Nun, warte **nur**, ich krieg ihn (Mephist) schon!

(J.W. Goethe: *Faust*, S.96)

フロッシュ：まあ待て，いまにあいつに目にも物を見せてやる。

(15)

Brander. *Wart **nur**!* es sollen Schläge regnen!

(J.W.Goethe: *Faust*, S.100)

ブランダー：待ってろ，拳骨の雨をふらしてやる。

2. 2

否定命令でない場合は *nur* は *bloß* とはつきり区別され，*nur* は要求を弱め，和らげ，なだめるような響きを与える。またしばしば励まし，元気づけでもある。この場合の *nur* は後で触れる *ruhig* に機能が近いといえる。

Setz dich **nur** hin! (内気な訪問客に) さあ，おすわりください。

Komm **nur** her! Ich tue dir doch nicht. さあこちらに来なさい。なにもしないから。

実例をみてみよう。

(16)

Auch Juro nahm sich auf seine Weise des Neuen an, indem er ihn ständig zum Essen nötigte. »*iß du **nur**, Jungchen, iß du **nur**, was du runterkriegst*, daß du groß und stark wirst und Speck auf die Rippen bekommst!« (Otfried Preußler: *Krabat*, S.125)

ユーロも彼なりのやり方で，いつも食べることをすすめ，新入りの世話をした。「さあ，食べなよ，食べられるだけ食べなよ，大きく，強くなり，そしてがっちり太るんだ。」

(17)

Da kam der Blatternarbige auf Giorgio zu. »Wir wollen dich fragen, ob wir mitgehen dürfen.« Giorgio war ganz gerührt. Also das wollten sie. »*Natürlich, kommt **nur**.*«

(Lisa Tetzner: *Die schwarzen Brüder*, S.295)

そのときあばた顔の少年がジョルジョのところへやって来て尋ねた。「僕たちも一緒にアルフレッドの葬式に出てもいいかい。」ジョルジョは胸が熱くなった。それがみんなが望んでいたことだった。「もちろんさ，さあおいでよ。」

例文(16)は新入りに「遠慮なく食べなよ」という元気づける気持ちが，例文(17)では，ジョルジョやアルフレッドのような煙突掃除の少年たちに対立していた狼団のメンバーたちに

は、アルフレッドの葬儀に出るのにためらいがある。ジョルジョの発言の *nur* にはそんな気遣いは必要ないよ、といった気持ちが反映している。

2. 3

またアクセントなしで「無関心さ」、実現してもたいしたことではないことを表す。

Lass ihn **nur** reden!

彼にしゃべらせておけよ。

Versuch's **nur**!

せいぜいやってみな。

(Eiichiro Oda: *One piece* 1, S.95)

(18)

Die Frau: Sie kann nicht nein sagen! Du bist zu gut, Shen Te...

Der Mann: Sag doch, er gehört dir nicht...

Shen te: *Schimpft nur!* (Bertolt Brecht: *Der gute Mensch von Sezuan*, S.21)

女: あんた「いや」って言えないのね。人が良すぎるのよ、シェンテ。

男: 自分の店じゃないって言いなよ!...

シェンテ: いくらでも私を罵ればいいわ。

(19)

Meine Mutter sagte weinend mit ihrer sanften, dummen Stimme: »Er (Hans) weiß ja nicht, was er tut... ich müßte ja sonst meine Hand von ihm zurückziehen.« »*Zieh sie nur zurück.*« sagte ich (Hans). (Heinrich Böll: *Ansichten eines Clowns*, S.26)

私の母は泣きながら穏やかな、馬鹿げた声で言った。「ハンスはなにをしているのかわかってないのよ。…でなきゃあの子とは縁を切らなければならないわ。」「切りたいなら縁を切ればいい」と私(ハンス)は言った。

3. 命令・要求表現における心態詞 *bloß* と *ja*

3. 1

命令・要求表現における *bloß* の特徴は要求の性格を強めること (*Verstärkung*)、その要求に従わない場合は、警告、脅迫にもなりうる。この場合 *bloß* はたいていアクセントが置かれる。

Hau blóß ab!	さっさとずらかれ。
Verspätet dich blóß nicht!	ぜったい遅刻するなよ。

否定命令では bloß は nur と同様脅かしの表現になる。ただし nur は bloß ほど強くない。

(20)

*Geh **doch blóß** weg, Franz, und komm nicht wieder, du machst mich unglücklich.*

(Alfred Döblin: *Berlin Alexanderplatz*, S.33)

帰ってちょうだい, フランツ, そしてもう二度と来ないで。あなたはわたしを不幸にするわ。

(21)

*Und komm **blóss** nicht auf dumme Gedanken, während ich schlafe, Oolong, sonst sag ich „pilli“. Klar?*

(Akira Toriyama: *Dragonball* 1, S.140)

「私が眠っているときまちがってもへんな考えを起こさないようにね, ウーロン, さもないと「ピリ」言ってひどい目を見ることになるからね, わかった。」

3. 2

心態詞 ja はアクセントが置かれ、発話者の意志の強化、要求は警告や脅迫にもなりうる。それゆえ ja は bloß と同様に強化 (Verstärkung) と特徴づけられる。(ja と bloß は変換可能。)

Lies já (bloß) das Buch durch!	その本を最後までしっかり読みなさい。
Komm morgen já (bloß) nicht wieder zu spät!	あすまた遅れるようなことが絶対ないように。

(22)

Doch gelesen haben wir ihn (den Breif) wirklich nicht, Herr Major, wirklich nicht. Wir wollen ihn auch nicht lesen, denn der Schreiber kommt selbst. *Kommen Sie **já**.*

(G.E. Lessing: *Minna von Barnhelm*, S.59)

でも私たち手紙を本当に読んでいませんでした, 少佐殿, ほんとうです。私たちはその気もありません。だって書いた方がじきじきにみえているのです。ぜひきてくださいね。

心態詞 ja が bloß とほぼ同じ機能であることは以下の例からもうかがえる。

(23)

Ein Gast wird aus einem Lokal geworfen: *Und lassen Sie sich hier **já** nicht mehr blicken.*
(Thurmair 1989, S.109)

ある客が飲食店から放り出される。「ここに2度と顔を出すんじゃないぞ。」

(24)

Son-Goku: Sollen wir dich zum Meer oder wie das heisst bringen?

Kame: Was?! Das würdet ihr tun?!

Buruma: Das ist reine Zeitverschwendung! Was gehn uns Ihre Sorgen an?!

Son-Goku: Dann geh ich halt alleine.

Buruma: Mach **doch**, was du willst!! *Aber dann lass dich hier **blóss** nicht wieder blicken!*
(Akira Toriyama: *Dragonball* 1, S.53)

孫悟空：オラたちがそのウミっていうところへつれてってやろうか!?

カメ： え!! ホ、ホントですか?!

ブルマ：時間ムダだわ!! ほっときなさいよ、カンケイないんだから。

孫悟空：じゃオラだけでいってくる

ブルマ：かってになさいよ!!! そのかわりにどとわたしの前にカオをださないでちょーだい!!!
(鳥山明『ドラゴンボール』第1巻55ページ)

4. 命令・要求表現における心態詞 mal と man

4. 1

心態詞 mal は命令，要求の強制力を和らげ，その要求にいていねいな性格を与える。ただその要求は，以下の例からも伺えるように，相手に大きな負担をかけないものである。

Komm mal her!	ちょっとこっちにおいでよ!
Mache mal das Fenster auf!	ちょっと窓をあけてくれる!
Passen Sie mal auf!	まあ聞いてくださいな。[例文(1) 参照]

(25)

»Und ich«, rief Dante. »So möchte ich alle Tage essen.« Auch Giorgio war so satt wie noch nie in seinem Leben.... »*Nun zeig mir **mal** gleich dein Bein*«, sagte Euphrosine zu Dante, nachdem sie die letzten Teller abgeräumt hatte.

(Lisa Tetzner: *Die schwarzen Brüder*, S.420)

「ぼくも、こんなものを毎日たべたいな。」とダンテが言った。ジョルジョも今までこんなにお腹いっぱいになるまで食べたことはなかった。ユーフロジーネは、最後のサラをかたずけたあとでダンテに言った。「さあ、ちょっと足をみせてごらん。」

4. 2

心態詞 **mal** は疑問文にも用いられ、その場合その疑問文は要求の性格をもつことになる。¹⁰⁾

Kannst du **mal** das Fenster aufmachen? 窓をあけてくれますか?
Dürfen wir **mal** durch? ちょっと通してくれますか?

(Akira Toriyama: *Dragonball* 3, S.149)

Würdest du dich **mal** rumdrehen? ちょっと一回転していただけるでしょうか?
(Winkler 1989, S.95)

また平叙文でも要求を示す発話にはしばしば **mal** が用いられる。

(26)

Du mußt mich **mal** ein paar Schritte durch den Garten begleiten, mein Freund.

(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.316)

(話しがある) ちょっと庭をいっしょに歩いてもらおうか、クリスティアン。

4. 3

心態詞 **mal** は日常会話の命令・要求表現では多くの場合慣用的に使われ、特に *sag mal!*, *hör mal!*, *sieh mal!* などはイディオム化され、しばしば間投詞になっている。¹¹⁾

(27)

Ach, Ida, bitte, komm doch noch ein bißchen herüber! Ich kann nicht schlafen,...

sieh mal, ich glaube, ich habe Fieber. (Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.337)

ああ、イーダ、ちょっとこっちに来て！眠れないの … ねえ、私熱があるみたいなの。

4. 4.

心態詞 **man** も **mal** と同様に、要求を和らげる働きをする。北ドイツ方言で、ベルリン方言を多用したデーブリンの『ベルリン・アレクサンダー広場』には頻繁に現れる。

(28)

»... Ich habe die Geschichte schon oft erzählt, mir liegt nichts dran. Wenn Euch nichts daran liegt...« »*Erzählen Sie **man** ruhig weiter die Geschichte.*«

(Alfred Döblin: *Berlin Alexanderplatz*, S.19)

「もうなんどもその話をしてきたし、こっちはどうだっていいんだ。もしそちらもどうだっていいというなら。…」「遠慮なく話を続けてくれ。」

5. 命令・要求表現における心態詞 **ruhig**

心態詞 **ruhig** は相手の懸念、遠慮を打ち消して、「安心して、遠慮なく～しなさい」という気持ちを表現する。

Komm **ruhig** herein! どうぞ遠慮なくお入りください。
Fahr **ruhig** in den Urlaub! 気兼ねなく休暇をとってください。

(29)

Shui Ta : Und wovon soll meine Kusine (Shen Te) leben?...

Sun : Lieber Schwager, ich wollte, du mischtest dich nicht hinein.

Shui Ta : Fräulein Shen Te...

Sun : *Überlassen Sie das Mädchen **ruhig** mir.*

(Bertolt Brecht: *Der gute Mensch von Sezuan*, S.72)

スイタ：じゃシェンテはどうやって暮らしていくんですか？…

スン：義兄さん、このことに口出ししてほしくないですね。

スイタ：(かわいそうな) シェンテさん。

スン：シェンテのことは安心して僕にまかせてください。

(30)

Sie (die Muhme Rumpumpel) kramte aus ihrer Schürzentasche ein Heft hervor.

»...Was sie getrieben hat, habe ich aufgeschrieben. Ich werde es vorlesen.« »*Lies es **nur ruhig** vor!*«, rief die kleine Hexe. (Otfried Preußler: *Die kleine Hexe*, S.116f.)

ルンブンペルおばさんは前かけのポケットからノートを一冊取り出しました。「この子がやったことは書きつけてあるわ。それを読んで聞かせましょう。」「どうぞ遠慮なくお読みください。」と小さな魔女は言った。

例文(30)は、小さな魔女はよい魔女になるためよい行いをしてきた（魔女にとってはよくないことではあったが）ため、読み上げられたって構わない、という気持ちが反映している。またすでに触れたように *nur* と *ruhig* はほぼ同じ意味（構わないで、遠慮しないでという話し手の気持ち）でしばしばこのように組み合わせられて使われることがある。¹²⁾

6. 命令・要求表現における心態詞 *schon*

心態詞 *schon* は、命令・要求文においては、要求の早急の実現を望む語り手の気持ちを表す。つまり「いいかげんに、さっさと～しなさい」といった苛立ちや急ぎ立てるような性格をもつ。

Schreib ihm **schon** einen Brief! いかげんに彼に手紙を書きなさい。

Komm schon her! さっさとこっちに来なさい。

(Akira Toriyama; *Dragonball* 1, S.38)

(31)

Sun: ... Du bist mir auch zu häßlich. Krumme Beine.

Shen Te: Das ist nicht wahr.

Sun: Zeig sie nicht! *Komm schon, zum Teufel*, unter den Baum, wenn es regnet!

(Bertolt Brecht: *Der gute Mensch von Sezuan*, S.45f.)

スン : …それにおまえはブスすぎる。ガニ股だし。

シェンテ: そんなことないわ。

スン : その足を見せるな。さっさと来いよ、雨が降ったら木の下へ。

(32)

»Was kostet er denn?« Ihre Stimme stieg noch höher. Der Mann verstummte und hob nur seine Hände. »*So, sags schon.*«, knurrte die Frau, »oder soll ich erst dein Geld nachzählen?«

(Lisa Tetzner: *Die schwarzen Brüder*, S.156)

「この子はいくらだったんだい。」お上の声はますます高くなった。親方はちょっと手をあげただけで、黙ったままだった。「さあ、さっさとお言いよ。さもなきゃあんたの財布に残ったお金を数えるよ。」とお上はうなるように言った。

7. 命令・要求表現における心態詞 *einfach*

心態詞 *einfach* は、要求する内容が、今ある問題に対して思いつく最善の解決であるという気持ちを示し、ふつう文中にアクセントはない。

- A: Ich werde immer dicker. 僕はますます太くなってる。
B: Iß doch **einfach** weniger! 食べるのを減らせばいいじゃないか。

(33)

»... und du bringst das Besteck und den Schmuck deinem Großvater zurück.«
»Damit er genau weiß, daß ich es war...« »*Gib es **einfach** zu* und bitte um Verzeihung!«
(Ingrid Noll: *Die Apothekerin*, S.58)

「あの食器セットと宝石をお祖父さんに返しなさい。」「僕が盗んだってことをお祖父さんが知るために。」「とにかく認めること，そして謝るのよ。」

(34)

Wir waren gerade fertig mit dem Interview, als ich feststellte, dass das Aufnahmegerät nicht funktionierte—von Watzlawicks Worten war nur etwa die Hälfte aufs Tonband gekommen. Ich kam ins Schwitzen...., »*machen Sie **einfach** das Beste daraus!* Ergänzen Sie den fehlenden Teil aus dem Gedächtnis, es wird schon passen.«
(in: *Frankfurter Allgemeine Zeitung*, den 4. April 2007, S.31)

心理学者ヴァツウラヴィックとのインタビューが終わろうとしていたとき、私はテープレコーダーが機能していないのがわかった。彼の言葉の半分くらいしか録音されていなかった。冷や汗が出てきた。(すると彼は言った)「…録音できた部分のテープから最善のものを作ればいいじゃないですか。欠いた部分は記憶で補ってください。それでいいでしょう。」

8. 命令・要求表現における心態詞 *eben* と *halt*

8. 1

心態詞 *eben* は、前のコンテクストに関連し、話者の要求の内容が問題の唯一の解決であるという気持ちを表し、「～するしかないじゃないか」といった感じになる。

A: Mein Wagen ist kaputt. Was mache ich? 私の車が故障した。どうしよう。

B: Fahr dann **eben** mit dem Bus! それじゃバスで行くしかないじゃないか。

A: Heute früh habe ich schon wieder den Zug verpaßt.

今日の朝もまた電車に乗り遅れた。

B: Steh **eben** morgen früher auf! 明日はもっと早く起きるしかないじゃないの。

(35)

Inspektor: Oberschwester Marta. Holen Sie bitte die Chefärztin.

Oberschwester: Geht auch nicht. Fräulein Doktor begleitet Einstein auf dem Klavier.

Inspektor: ... Ich muß die Chefärztin einfach sprechen.

Oberschwester: Bitte. *Dann warten Sie **eben**.* (Friedrich Dürrenmatt: *Die Physiker*, S. 17)

警部：婦長さん、院長先生を呼んでくれますか？

婦長：それもダメです。院長先生はアインシュタインのピアノの伴奏をしています。

警部：…私はとにかく院長先生と話をしなければならないのです。

婦長：どうぞ。でもそれならお待ちいただくしかありませんね。

8. 2

心態詞 *halt* は、話し手の要求内容以外に方法や解決策がないという気持ちを表す。したがってほぼ *eben* と同じ働きであるが、*halt* は南ドイツやオーストリアで用いられることが多いとされる。また *halt* は *eben* より弱いともいわれる。

Wenn du pünktlich da sein willst, sollst du **halt** (*eben*) früh aufstehen.

時間通りにそこに着きたいなら、早起きするしかないね。

(36)

Wenn Sie sich lieber langsam abkühlen, *dann tun Sie es **halt**.*

(Reinhold Dey: *Richtig Reisen/Finnland*, S. 208, Winkler (1989, S. 98))

もしあなたがゆっくり体を冷やしたいのなら、それをするしかないですね。

心態詞 *halt* は、本稿末の使用テキストの命令・要求表現に見られることがありませんでした。膨大な例文をあげている『ドイツ語副詞辞典』（1998）においても文学作品からの例文がないのが要求文の *halt* です。このように命令表現における *halt* はあまり書かれたテ

クストには用いられないのかもしれませんが。

9. 命令・要求表現における心態詞 auch

心態詞 auch は、要求される行為が本来なされるべきこと、一般的な規範であることを示す。しばしば schön と結びつき、大人から子どもに対する要求にしばしば見られる。

Nun iß auch schön!	ちゃんと食べなさい！
Und sei auch brav!	お行儀よくしなさい。

心態詞 halt と同様に使用テキストからは実例を見つけることができませんでした。

10. 心態詞の結合

心態詞は互いに結びつくことが可能だが、その結びつきは随意ではなく、統語的、意味的な理由がある。異なる文タイプでのみ現れる心態詞は通常結びつかないし、意味的な特性によっても結びつきに制限がある。ここではやはり命令・要求表現のタイプの文に現れる心態詞の結合のみを扱う。¹³⁾

10. 1

Thurmair (1989) によれば、命令文と平叙文には現れるが、疑問文等には現れないいくつかの心態詞の結合がある。それは 1. doch einfach, doch schon 2. eben einfach 3. einfach mal 4. halt eben, halt einfach などである。心態詞が結合するとき、基本的にはそれぞれの心態詞がもつ機能が結びつくと考えていいし、すべての結合がそれほど頻繁になされるわけではないので上記の一例のみ示す。

(37)

»... meine gnädige Frau, Sie schreiben mir immer einen so liebenswürdigen Brief. Nun, wer freute sich dessen nicht? Aber es ist doch jedesmal eine Mühe... *Schicken Sie mir **doch einfach** Roswitha.*«
(Theodor Fontane: *Effi Briest*, S.260)

奥様、あなたは私にいつもたいへん親切なお手紙をくださる。まあ、それをうれしく思わない人はいないです、ただ、毎度お手数ですから…ロスヴィータを寄こしてくださればいいですよ。

10. 2

また命令・要求表現においてのみ現れる心態詞の結合として以下のものがある。1. doch bloß, doch nur, doch mal, doch ruhig 2. nur mal, nur ruhig, nur ja, 3. bloß ja 4. ruhig mal 5. eben mal 6. halt mal, halt schon などである。¹⁴⁾ ここでは丁寧な要請としてしばしば用いられる doch mal と要求の気持ちの高まりを表す doch nur の例のみをあげるにとどめる。¹⁵⁾ (nur ruhig は例文(30), doch bloß は例文(20)を参照。)

(38)

Boss, lass ihn **doch mal** mitkommen! ボス、彼を連れて行ってやったらどうです！
(Eiichiro Oda, *One Piece* 1, S. 11)

(39)

Der Feldwebel: Willst du mich beleidigen und sagst, ich sterb?
Mutter Courage: Und wenns die Wahrheit ist? Wenn ich seh, daß du gezeichnet bist!...
Schweizerkas: Sie hat das Zweite Gesicht, das sagen alle. Sie sagt die Zukunft voraus.
Der Werber: *Dann sag **doch mal** dem Herrn Feldwebel die Zukunft voraus...*
(Bertolt Brecht: *Mutter Courage und ihre Kinder*, S. 14)

曹長： おまえ俺を侮辱し、俺が死ぬっていうのか。
肝っ玉お母： もし本当だったら。おまえにその卦が出ていたとしたら。
スイスチーズ：お母は第二の顔があって未来を予言するってみんな言っているよ。
徴兵係： それなら曹長の未来を予言してさしあげろ。

(40)

Narinelli: Werden Sie wohl erlauben müssen, Herr Oberster, dass sie (Emilia Galotti) nach Guastalla gebracht wird.
Odoardo: Meine Tochter? Nach Guastalla gebracht wird? und warum?
Narinelli: Warum? *Erwägen Sie **doch nur**.* (G.E. Lessing: *Emilia Galotti*, S. 76f.)

マリネッリ：大佐殿、ご令嬢をグアスタッラにお連れすることを認めなければ。
オドアルド：娘を？ グアスタッラに。なぜ。
マリネッリ：なぜ？ よくよく考えてください。

最後に：心態詞の日本語への対応について

すでに心態詞の機能に基づいて、大まかに対応しそうな日本語の表現をあげ、機能説明後の単文の訳にはそれを利用してきました。しかし、文学作品などの実例にあってはそれが必ずしもそのまま対応できるのではないことがわかります。そこでドイツ語心態詞の対応訳を見るため、心態詞をともなったドイツ文を、比較的類似した言語である英語訳と比較してみよう。

(41)

»Kesselmeyer!« sagte er. »*Fassen Sie sich **doch!** Sind Sie von Sinnen? Hören Sie **doch** auf zu lachen! Wollen Sie Wein haben? Wollen Sie eine Cigarre haben? Worüber lachen Sie **eigentlich?***«
(Thomas Mann: *Buddenbrooks*, S.202)

(41')

»Kesselmeyer,« he said. »*Control yourself, **man**. Are you out of your head? Stop laughing! Will you have some wine? Or a cigar? What are you laughing at?*«

(*Buddenbrooks*, translated by H.T. Lowe-Porter, p.169)

「ケッセルマイヤー！」とグリューンリヒ氏は言った。「どうか、落ち着いて。気は確かですか。さあ、いいがげんに笑うのはやめてください！ ワインでもどうですか？ シガーを1本どうです？ いったいなにかおかしいんです？」

(42)

»Ach, es gibt vieles«, sagte die kleine Hexe. Sie hatte sich längst einen Plan gemacht.
»*Kommt **nur** mit, es wird alles gut werden.*« (Otfried Preußler: *Die kleine Hexe*, S.62)

(42')

»Plenty of things can happen,« said the little Witch. She had already decided on a plan. »*You come with me. Everything will be all right.*«

(*The little Witch*, translated by Anthea Bell, p.85)

「まあ、いろいろなことがあるわよ」と小さい魔女は言った。前からある計画をしていたのでした。いいからおいでよ、すべてがうまくいくから。」

例文(41)は例文(1)と同じです。最初の *doch* にだけ *man* が対応しているといえるかもしれませんが、あとの *doch* や *eigentlich* には対応する訳語がありません。例文(42)の

nur には「ためらう必要はないよ」といった気持ちが反映されていますが、それに対応する英訳にはドイツ語の心態詞に対応するものがありません。もちろん英語にもドイツ語の心態詞の機能を表す言語表現があるはずですが、上例からもこれほど類似した言語でも 1 対 1 に対応する訳語がないことがわかります。従ってドイツ語の心態詞の訳を考える場合は、基本的には心態詞がどのようなコンテキストで用いられ、話し手のどのような心理を反映しているかを考え、そのつど日本語を考えていくしかありません。¹⁶⁾

本稿の主眼はあくまでもドイツ語の命令・要求表現についてですが、ドイツ語の命令・要求表現には心態詞が頻繁に用いられます。¹⁷⁾ したがってドイツ語における命令・要求表現を考えるためには心態詞の機能を理解することが欠くことのできないものと言えます。

註

- 1) 引用テキストは、本稿末の使用テキスト(107ページ)より、著者と作品名とページ数のみを記す。例文の邦訳は断らないかぎり、既存の訳を参考にした拙訳である。そのまま借用してはいないが、特に、プレヒトに関しては岩淵達治氏の訳を、レッスンに関しては田邊玲子氏、小宮曠三氏の訳を参考、利用させていただいた。
- 2) 心態詞の基準に関しては、Helbig (1990), 岩崎 (1998), 井口 (2000), 神田 (2002) などを参考にしている。特にここでの記述は井口 (2000: S.120 ~ 144) に多くを負っている。
- 3) 高田 (2004) は辞書には随分前から心態詞の記述があることを実証している。
- 4) 幸田 (1985: S.123), 川島編『言語学辞典』(1994) の心態詞の項目など参照。
- 5) Winkler (1989) のみが命令・要求表現の研究書である。Winkler は心態詞に関してはThurmair (1989) の元になったThurmair のDissertation (1986) を参考にしている。
- 6) Thurmair (1989: S.49) で mir もあげているが、ここでは扱わない。
- 7) 大まかではあるが、例えばベルの小説『道化師の告白』の命令表現に現れる心態詞は, doch (26例), nur (8例), mal (3例), プレヒトの戯曲『ゼチュアンの善人』ではdoch (7例), nur (4例), ruhig (3例), einfach (1例), schon (1例), コミック『ドラゴンボール』のドイツ語版1巻ではdoch (10例), schon (7例), mal (4例), bloß (4例), ruhig (1例) である。岩崎 (2003) は、要求文に用いられる心態詞の御三家として doch, nur, ja をあげているが、使用テキストの範囲では ja はあまりみられなかった。
- 8) 心態詞 doch が同じ命令文でも異なった、あるいは反対とも思える機能を示すことに関しては神田 (2002: S.62f.) を参照。
- 9) 要求文に用いられる心態詞 nur を詳しく扱った岩崎 (2003) は nur の三つの機能に触れている。1) 話し手から聞き手に対する要求の気持ちの強さを示す機能(話し手からの脅しや威嚇になる場合も含め) 2) 「やるならやってみろ」「構うものか」「へっちゃらさ」など、話し手が開き直っていることを相手に示す機能 3) ためらったり、遠慮したりする相手に対する「そんな心配は無用

ドイツ語命令・要求表現における心態詞について

ですよ」「ちつとも構いませんよ」という話者の気持ちを示す機能。やっかいな要求文における nur を豊富な例文に基づき上記のようにわかりやすく見事にまとめている。Winkler (1989), Thurmair (1989) に基づいた本稿もおおまかには岩崎の指摘に対応しているように思われる。

- 10) Kannst du das Fenster aufmachen? では命令行為とも疑問行為ともとれるが, mal を加えれば命令行為に, denn を加えれば疑問行為になる。このように心態詞は文の発話内行為を特定化する機能がある。川島編『ドイツ言語学辞典』606ページなど参照。
- 11) Donhauser (1986: S.192 ~ 200) 参照。
- 12) 岩崎 (2003: S.52) 参照。
- 13) Winkler (1989: S.101), Thurmair (1989: S.204f.) など参照。
- 14) ただし, doch bloß, doch nur は願望文や感嘆文でも用いられる。また, doch mal, doch ruhig は話法の助動詞と用いられる場合は平叙文でも現れる。
- 15) ゲーテ時代のドイツ語と現代のドイツ語における心態詞を比較した岩崎 (2000) は, ゲーテ時代と現代の心態詞の用法にさほど違いがないことを明らかにしている。ただし, doch ja, doch nur, nur ja など, 心態詞の結びつきに関して, 現代ではあまり使われにくくなっている傾向があることを指摘している。確かに Thurmair (1989) は doch ja をあげていないし, 使用テキストでも doch nur (例文 (38)), doch ja (例文 (43)) が見られたのはレッシングの戯曲など18世紀のものである。
(43) Das Herz, gnädiges Fräulein? *Man traue **doch ja** seinem Herzen nicht zu viel.*

(G.E. Lessing: *Minna von Barnhelm*, S.23)

心ですって, お嬢様。心なんてそんなに信用するものではございませんよ。

- 16) この点に関しては岩崎 (1986), 三瓶 (1999) 参照。心態詞の日本語との対応を扱ったものに幸田 (1985), 小坂 (1992), Werner (2001) などがある。
- 17) 頻繁に命令・要求表現が用いられながら, 心態詞が現れないのは『聖書』である。例えば現代語版のルター訳の『新約聖書』の「マタイによる福音書」には命令表現が多用されているが心態詞はほとんど現れない。

使用テキスト

Akin, Fatih: *Gegen die Wand Das Buch zum Film*, Köln (Kiepenheuer & Witsch) 2004

Böll, Heinrich: *Ansichten eines Clowns*, München (dtv) 1981

Brecht, Bertolt: *Mutter Courage und ihre Kinder*, Frankfurt am Main (suhrkamp) 1963

Brecht, Bertolt: *Der gute Mensch von Sezuan*, Frankfurt am Main (suhrkamp) 1964

Döblin, Alfred: *Berlin Alexanderplatz*, München (dtv) 1965

Dürrenmatt, Friedrich: *Die Physiker*, Zürich (Diogenes) 1985

Fontane, Theodor: *Effi Briest*, München (dtv) 1990

Frisch, Max: *Andorra*, Frankfurt am Main (suhrkamp) 1975

Geyer, Christian: *Machen Sie einfach das Beste daraus! Die Welt als Witz und Vorstellung* in: Frankfurter Allgemeine Zeitung, 4. April 2007, S.31

Goethe, Johann Wolfgang: *Faust Erster Teil*, Frankfurt am Main (Insel Verlag) 1976

- Kafka, Franz: *Das Schloß*, Frankfurt am Main (Fischer Taschenbuch Verlag) 2005
Lessing, Gotthold Ephraim: *Emilia Galotti*, Stuttgart (Reclam) 2006
Lessing, Gotthold Ephraim: *Minna von Barnhelm*, Stuttgart (Reclam) 1977
Nietzsche, Friedrich: *Also sprach Zarathustra*, Stuttgart (Reclam) 1977
Noll, Ingrid: *Die Apothekerin*, Zürich (Diogenes) 1996
Mann, Thomas: *Buddenbrooks*, Frankfurt am Main (Fischer Taschenbuch Verlag) 1996
Buddenbrooks, translated by H.T. Lowe-Porter (Vintage) 1999
Preußler, Otfried: *Die kleine Hexe*, Stuttgart. Wien (Thienemann Verlag) 1957
The Little Witch, translated by Anthea Bell, Tokyo (Kodansha) 2004
Preußler, Otfried: *Krabat*, München (dtv) 2002
Tetzner, Lisa: *Die schwarzen Brüder*, Hamburg (Carlsen Verlag) 2002

特に参考にした邦訳

- レッシング『ミンナ・フォン・バルンヘルム』小宮曠三訳 岩波文庫 1994 年
レッシング『エミリア・ガロッティ』田邊玲子訳 岩波文庫 2006 年
ゲーテ『ファウスト』手塚富雄訳 中央公論社 世界の文学 5 1974 年
ブレヒト『肝っ玉お母とその子供たち』『ゼチユアンの善人』岩淵達治訳『ブレヒト戯曲全集』第 5 巻
未来社 1999 年

使用コミック

- Oda Eiichiro: *One Piece*, Hamburg (Carlsen Verlag) 2001
尾田栄一郎『ワンピース』東京 (集英社) 2007 年
Toriyama, Akira: *Dragonball*, Hamburg (Carlsen Verlag) 1997
鳥山 明『ドラゴンボール』東京 (集英社) 2007 年

参考文献

- Borst, Dieter: *Die affirmativen Modalpartikeln doch, ja und schon. Ihre Bedeutung, Funktion, Stellung und ihr Vorkommen*, Tübingen (Max Niemeyer) 1985
Brinkmann, Hennig: *Die deutsche Sprache Gestalt und Leistung*, Düsseldorf (Schwann) 2. Aufl. 1971.
Donhauser, Karin: *Der Imperativ im Deutschen Studien zur Syntax und Semantik des deutschen Modusystems*, Hamburg (Helmut Buske Verlag) 1986.
Duden: *Die Grammatik der deutschen Gegenwartssprache*, Mannheim/Wien/Zürich 3. Aufl. 1973, 4. Aufl. 1984, 7. völlig neu erarbeitete und erweiterte Auflage, 2006
Engel, Ulrich: *Deutsche Grammatik*, Heidelberg (Julius Groos Verlag) 1981
Erben, Johannes: *Deutsche Grammatik ein Abriss*, München (Max Hueber) 12. Aufl. 1980.
Helbig, G, Buscha, J: *Deutsche Grammatik*, Leipzig (Verlag Enzyklopädie) 1988.
Helbig, Gerhard: *Lexikon deutscher Partikeln*, Leipzig (Verlag Enzyklopädie) 1990.
Hentschel, Elke: *Funktion und Geschichte deutscher Partikeln: ja, doch, halt und eben*, Tübingen (Max Niemeyer) 1986

ドイツ語命令・要求表現における心態詞について

- Hentschel, E./Weydt, H: *Handbuch der deutschen Grammatik*, 2.Aufl. Berlin・New York (Walter de Gruyter) 1994.
- E. ヘンツェル/H. ヴァイト『現代ドイツ文法の解説』西本・高田・河崎訳 同学社 1996年
- Rosengren, Inger: Imperativsatz und “Wunschsatz”—zu ihrer Grammatik und Pragmatik In: *Satz und Illokution 2*, I. Rosengren (Hrsg.) Tübingen (Max Niemeyer) 1993, S.1–47.
- Thurmair, Maria: *Modalpartikeln und ihre Kombinationen*, Tübingen (Max Niemeyer) 1989
- Werner, Angelika: *Modalpartikeln im Japanischen. Ein Vergleich mit deutschen Modalpartikeln*, Universitätsverlag Siegen, 2001
- Weydt, Harald: *Abtönungspartikeln. Die deutschen Modalwörter und ihre französischen Entsprechungen*, Homburg (Gehlen) 1969.
- Weydt, Harald (Hg.): *Aspekte der Modalpartikeln Studien zur deutschen Abtönung*, Tübingen (Max Niemeyer) 1977
- Weydt, Harald (Hg.): *Die Partikeln der deutschen Sprache*, Berlin・New York (Walter de Gruyter) 1979.
- Winkler, Eberhard: *Der Satzmodus ›Imperativsatz‹ im Deutschen und Finnischen*, Tübingen (Max Niemeyer) 1989
- Wolski, Werner: *Partikellexikographie Ein Beitrag zur praktischen Lexikologie*, Tübingen (Max Niemeyer) 1986
-
- 井口 靖：『副詞』大学書林 2000年
- 岩崎英二郎（1986）：独和辞典と心態詞「エネルゲイア」第12号 34～39ページ。
- 岩崎英二郎編：『ドイツ語副詞辞典』白水社 1998年
- 岩崎英二郎（1999）：„So komm doch endlich!“ 一副詞soに導入される要求文—「獨協大学 ドイツ学研究」第42号 1999年 1～21ページ。
- 岩崎英二郎（2000）：ゲート時代の心態詞「ゲート年鑑」第42巻 25～46ページ。
- 岩崎英二郎（2003）：要求文に用いられる心態詞 nur 「慶応義塾大学独文学研究室年報」20号 41～72ページ。
- 川島淳夫（編集主幹）：『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店 1994年
- 神田靖子（2002）：ドイツ語心態詞MPから見えてくるもの「日本語学」（明治書院）252号 59～73ページ。
- 小坂光一：『応用言語科学としての日独語対照研究』同学社 1992年
- 幸田 薫（1985）：心態詞 doch と日本語の対応表現 「東京学芸大学紀要」第2部門 人文科学 第36集 123～132ページ。
- 佐藤清昭（1995）：関口存男の「やっぱり」は心態詞にも該当 —「Doch とは何ぞや？」の構造主義的解釈『探求ドイツの文学と言語』立川洋三先生定年退職記念論文集 1-23ページ。
- 関口存男：Doch とは何ぞや？『ドイツ語学講話』所収 1975年 201～206ページ。
- 鈴木康志（2007）：ドイツ語命令・要求表現のさまざまな形態について—『ブデンブローック家の人々』を例として—「言語と文化」（愛知大学語学教育研究室）第17号 49～71ページ。
- 高田博行：ドイツ語辞典における心態詞の記述史—伝統のなかの改新『ドイツ語学の諸相』西本美彦先生退官記念論文集 河崎靖他編 所収 2004年 141～155ページ。

三瓶裕文 (1999) : 書評「岩崎英二郎編『ドイツ語副詞辞典』について」Brunnen 399号 郁文堂,
9～12ページ.

吉田光演 (1987) : ドイツ語心態詞の組み合わせについて 琉球大学語学文学論集32号 193～214ページ.